

特集 山武からアズビルへー

「人を中心としたオートメーション」の
実現に向け、名実共に飛躍

azbil FIELD

夢時代ショッピングモール

成田国際空港 第2旅客ターミナルビル



ブオオニ 

対談 草野満代 × 小野木聖二

フリーアナウンサー Mitsuyo Kusano Seiji Onoki アズビル株式会社 代表取締役会長 執行役員会長

山武からアズビルへ

「人を中心としたオートメーション」の 実現に向け、名実共に飛躍

2012年4月、株式会社 山武 は アズビル株式会社 に社名を変更した。

「苦役からの解放」をうたった1906年の創業から105年余り、

山武は産業の発展を支えるオートメーションの分野で

常にパイオニアとしての役割を果たし続けてきた。

そして、2006年の創業100周年を機に、

グループ理念「人を中心としたオートメーション」と

グループシンボル「azbil」を制定、これまでの機械を制御するという発想から

人と機械が協業し、人の達成感を生み出すという考え方に発展した。

社名変更にあたって、その背景や想い、

azbilグループとしての事業展開の方向性などについて、

アズビル株式会社 代表取締役会長 小野木 聖二と

フリーアナウンサー 草野 満代氏が対談した。



「社名変更のインパクトを グループ理念を推進する力に」

社名変更は名実共に 理念を広げるための出発点

草野 2012年4月1日から社名を株式会社 山武からアズビル株式会社に变更しました。社名を変えるというのはとても大きな出来事だと思いますが、その意図を教えてください。

小野木 山武という社名は創業者の山口武彦に由来するもので、非常に歴史があるものですが、あえて「アズビル」という名称に変更することにしました。

私は、社名というものはどういう会社なのかを理解していただく上で、非常に大切なものだと考えます。実は2006年に創業100周年を記念して、21世紀という新しい時代の中で自分たちの事業も変えていこうと、新たなグループの理念とシンボルを定めました。そのときに生まれたのが「azbil(アズビル)」です。この名称について、まずはグループシンボル、次いでグループ名称として使ってきました。それから5年ほど経ちました。

草野 この5年間かけて「azbil」というブランドを育ててきた、ということですね。

小野木 私が入社したときも社名に山武が付いていましたし、社員だけでなく、お客さまも含めて、山武という名前がなくなるのは、一抹の寂しさがあると思います。

その一方で、会社が変わり、推進する事業そのものが変わっていくのだということを理

解していただくには、社名を変えるのは良い決断だ、という意見も多くありました。

オートメーションは 産業界発展の母体となる技術

草野 そして、社名変更という大きな決断をされたのですね。「アズビル」という社名で新たなスタートを切ったわけですが、社内外に対してどのような期待をしていますか。

小野木 社名が変わるということは、社員にとってかなり大きな出来事だと思います。同じように、お客さまに与えるインパクトも大きなものがあると思います。このインパクトを、azbilグループの理念として打ち出している「人を中心としたオートメーション」を推進する力にしていけることが大切だと考えます。

また、グループ各社は生い立ちが違ふ企業もあるので、社名がバラバラになっていました。お客さまからすると、azbilグループを掲げていることは認識できても、いまひとつ統一性がありませんでした。「アズビル」を冠した会社になることで、お客さまから見て、より分かりやすくなると思います。

草野 一丸となって事業を進めていくというイメージですね。その事業内容についてお聞きしたいのですが、azbilグループはオートメーションを事業としていますよね。そもそもオートメーションとはどんな場面で、どんな役割を果たしているのでしょうか。

小野木 オートメーションは産業界の発展の母体となる技術です。シンプルな例を挙げると、お風呂はボタン1つで当たり前のように設定した温度でお湯が沸き、いつでも入れますよね。こういう状態にしてください、と設定したら機械が自動的に適切な状態にコントロールしてくれる、それがオートメーションという技術です。

草野 今ある状態を測って、そして最適な状態にする、それがオートメーションなんですね。

小野木 そうです。azbilグループは、工場からオフィスビル、商業施設、家庭まで、様々な対象に対して、最適なオートメーションの製品やシステム、サービスを提供しています。

人を中心に据えて考えることで オートメーションの可能性が広がる

草野 創業は1906(明治39)年とお聞きしました。とても歴史のある企業ですよ。

小野木 創業者の山口武彦が「苦役からの解放」をうたって、山武商會を興しました。当時は物を作るのはすべて人の手でやっていたので、とても大変でした。それを機械でやろうということで、まずは工作機械の輸入商社からスタートしました。その後、時代が経過し、いろいろなところでオートメーションが利用されるようになり、自らも開発・生産を手掛け、様々な製品、サービスを提供するようになりました。

草野 これだけ社会が複雑になると、オートメーションというビジネスの可能性はますます広がると思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。

小野木 時代が変化していく中で、単純に機械が人間に代わるだけでよいのだから

か? と考えるようになりました。例えば、先ほどのお風呂の話ですが、暖かい部屋の中で過ごしていた場合と、寒い外から帰ってきた場合では、お風呂に入って気持ち良いと感じる温度が違います。ところが、これまでのオートメーションはいずれの場合でも同じ温度にしようとしてきたわけですが、これからはその時々の人々の状態に最も合った温度にしていける必要があります。

私たちは、人の安心や快適、達成感を実現するために、オートメーションの技術をどのように活用できるかという観点から考えてみよう、そうすると今まで気付かなかった新たなニーズやオートメーションの役割が見えてくるのではないかと考え「人を中心としたオートメーション」を理念に据えたのです。

草野 私はオートメーションという言葉から、より便利になること、作業をより単純にすることをイメージしていました。そこから、さらに踏み出していくわけですね。人それぞれのニーズに合ったオートメーション、とでも言いましょうか。

小野木 そのとおりですね。例えば、建物の場合は場所や用途によって最適な温度が違いますよね。あるホテルで、厨房の室内温度を、コックさんが忙しく働いているときの状態に合わせて、ある温度に設定しました。ところが休憩するときはコックさんの活動量も小さくガスレンジなど熱が出る器具を使わないため、その温度では寒いのです。このように、働いている人が快適な環境はその時々で変化します。私たちはそれに対応するシステム*を開発し、提案しました。

一方、工場では製品を早く作ることが重要かもしれないし、あるいは品質の高い製品を作ることがポイントになるかもしれません。

*ガス消費量に応じて温度設定を変更する空調制御システム。

フリーアナウンサー

草野 満代氏

(くさの・みつよ)

岐阜県出身。津田塾大学文学部数学科卒。1989年 日本放送協会(NHK)入局。1997年 フリーアナウンサーとなりTBS「筑紫哲也NEWS23」キャスターなどで活躍。



アズビル株式会社 代表取締役会長 執行役員会長

小野木 聖二

(おのき・せいじ)

北海道出身。1970年 山武ハネウエル株式会社(現アズビル株式会社)入社。2004年6月より株式会社 山武(現アズビル株式会社)代表取締役社長兼執行役員社長。2012年4月より現職。





しかし、そのために人の環境が犠牲になってはいけません。あくまでも人が主役ですから。我々はそうした様々なニーズを汲んで、人と機械、システムをトータルで望ましい状態にするのです。そして働いている人が仕事を終えたときに、「今日は充実した良い一日だったな」と思えるような環境を作ることができればよいと考えています。

機械による制御から、人と機械の協業へ

草野 明治期の創業から、戦争、高度成長期を経て、バブル期、そしてその崩壊から現在までと、求められるものも変わってきています。azbilグループは日本の産業の発展とどうかかわってきたのでしょうか。

小野木 時代によって、オートメーションのポイントも違ってきています。工場でいえば、高度成長時代の前期はいかに早く、安くたくさん製品を作るかに焦点が当てられていました。その後、1970年代半ば、オイルショックをきっかけに省エネルギー・省資

源というニーズが生まれ、私たちが「オートメーションの技術で『省』に貢献」を掲げて、事業を進めました。そして、最近では働いている人がやりがいや達成感を得ることができる環境作りに貢献できるかが求められるようになっていきます。

草野 アズビルの資料を拝見すると、よく環境制御という言葉を目にしますがそういうことですか。

小野木 今お話ししたのは工場などの生産環境をどう作っていくかという例です。

もう1つ、建物などの執務環境があります。建物もそれぞれに用途や目的が異なり、単にオフィスビルと言っても求めら



れる環境は同じではありません。そこで、実際に仕事をしている環境、具体的には温度や湿度、風量などを変えながら、執務している人が快適と感じる（仕事の生産性の高い）環境とは、といった研究も行っています。半数くらいの人は25度近辺が快適と感じるようですが、残りの人はバラバラです。

草野 温度の感じ方って、まさに人それぞれですよ。

小野木 そうなんです。人が感じる環境に対する制御は本当に難しいのですが、今、懸命に挑戦しているところです。でも、難しいからこそ、ビジネスチャンスがあるんだと思います。

草野 建物に関して言えば、国内の大型建物の7割以上はazbilグループの製品を使っていると聞きました。これは大変なことですね。

小野木 とてもありがたいことです。建物の設備も製品を納入して終わりではなく、常に私たちの社員が現場に行き、お客さまと一緒に、より良い環境を作り出すための運用改善を行っています。このことがまた新たな提案にも結びついています。

「難しいからこそ ビジネスチャンスがある」

仕事は出会い。逃げずに向かうことで面白味生まれる

草野 小野木会長は1970年入社で40年余り、アズビルで働いていらっしゃるそうですが、入社当時のエピソードはありますか。

小野木 今と違い、当時は新入社員教育の期間はわずか3カ月で、すぐに実際の製品設計をやらせてくれたんですよ。担当してから1年ちょっとで設計して、生産して、それを製品としてお客さまに納入しました。でも、設計ミスがあって配線の修正をするために現場へ行くことになりましたが（笑）。

草野 おおらかな時代だったんですね（笑）。でも、自分が設計したものが形になって世の中に出ていくというのは、夢があるし、やりがいのある仕事なんじゃないですか。

小野木 どんな仕事にもやりがいはあると思います。たまたま、私はシステム設計という仕事でしたが、仕事は出会いのようなもので、そこに自分なりの面白味を見つけることができればどんな仕事でも楽しいものだと思うんです。

草野 仮に配属先が思いどおりの部署じゃなくても、そこで仕事をしているうちに面白味を見つけて広げていけばいいと。

小野木 そうです。私は技術系の出身です

が、20年くらい在籍した開発部門を離れ、研究部門の所長に任命されたことがあります。同じ技術でも、開発と研究はポイントが全く違うんですよ。自分自身は研究という仕事に性に合っていないと思いました。就任当時、その研究所はできたばかりで何をすればいいのかわからなかったの、と、とりあえず研究者を社内外から探して集めてきました。



そして、方向性を決めて研究してもらっているうちに、仕事がだんだんと面白くなってきました。その経験から、たとえ希望する仕事でなくとも、自分にとっての面白さを見つけ出せば、必ず結果が出るし、次につながっていろいろなチャンスも生まれるということを実感しました。

草野 私もNHKに在職していたとき、いきなり「スポーツキャスター」に任命されたことがあります。当時の私はスポーツに興味が



なく、自分から希望したわけではありませんでしたが、始めてみるととても面白い世界で、最後にはオリンピックの中継までやらせていただきました。

小野木 逃げてしまうとそこで終わりです。逃げずに一生懸命やれば、それが良い結果につながり、また次を頼まれるという好循環が生まれるんですね。

全社を挙げて、グローバルの顧客企業の課題解決に取り組む

草野 新たなスタートを切ったわけですが、これから「アズビル」をはじめとするグループ各社はどのような企業を目指すのでしょうか。

小野木 第1はオートメーションによってお客さまに安全や安心をご提供すること、第2はオートメーションによって快適な環境を構築すること、第3は人と機械が一緒になることで、やりがいや達成感を得ていただくことです。さらに、それらを通して、地球環境に貢献してゆくことです。私たちはこの4つをポイントに、お客さまに満足いただける価値を提供できる企業を目指していきます。

azbil

【azbil】とは

azbil(アズビル)はautomation-zone-builderの意味で、グループ理念である「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します、という想いを込めたグループの象徴です。オートメーション(automation)の技術によって、グループ理念のキーワードである安心、快適、達成感のある場(zone)を実現(build)することを表しています。

●山武の理念の変遷

1906年（創業時）

苦役からの解放



1978年

Savemation (Saving by Automation)



2006年
～現在

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

「アズビルでなければだめだ」 と書いていただけるように

草野 安心できる環境といっても、家庭で感じる安心と工場という安心、オフィスでの安心とはそれぞれ違います。

小野木 そのとおりです。ですから、それぞれの安心をオートメーション技術と結びつけて、実現していきます。また快適というと、家庭やオフィスでは温度や湿度を軸にした快適さになりますが、工場では違ってきます。ですから、その意味することが何であるかをお客さまと一緒にって明確にして、最良の仕組みを作り上げていくのです。

草野 企業は事業を成功させて、利益を上げなければならぬわけですから、それを支えるビジネスパートナーとしてのazbilグループの役割も大変大きなものがあると思います。

小野木 お客さまも専門分野の違うazbilグループと一緒にやることで、課題をより良い形で解決することができます。そのためには、私たち自身が課題を解決できる力を持つ必要がありますし、また、企業が健康体でなければ、お客さまから信用されません。私たちの事業は製品を納入して終わりではなく、お客さまは納入した製品を長いものでは20年以上お使いになります。そうすると、サービスやメンテナンスを長期間、継続して行うことができればなりませんので、azbilグループは長いスパンでそれを行うことができる体力をつけなければなりません。その意味で、私たちにとつての成長とは、事業規模の拡大にとどまらず、優れた人材の育成や良好な財務体質の維持という安定した事業継続という内容面の両方を備えたものなのです。

草野 グローバルという視点での事業の展開を考えたときに、どのような企業になることを目指しているのでしょうか。

小野木 グローバル展開は、これから最も注力していく施策の1つですが、事業の考え方は海外も国内と全く変わりません。海外事業でも、azbilならではの「人を中心としたオートメ



ーション]を基軸にして、お客さまにご愛顧いただけるように努力していきます。

海外における競争は、より厳しいものがありますが、国によって少しずつ違いはあるものの、先ほど挙げた4つのポイントは共通しています。ですから、お客さまの課題を解決するために、azbilグループとして、全力で仕事をして

いければ、海外のお客さまにも評価されると思いますし、「アズビルでなければだめだ」と必ず書いていただけるようになると確信しています。
草野 アズビルのこれからが楽しみになってきました。貴重なお話をありがとうございました。

小野木 こちらこそ、ありがとうございました。

草野さんとの対談を終えて

小野木聖二

草野さんは豊富な報道経験に加え、事前の取材準備も周到にされ、対談当日は的確な質問(時には応答に窮するような鋭い質問)をされる、なおかつ、チャーミングな面を併せ持つ大変魅力的な方でした。

本年4月には、新生・アズビル株式会社およびazbilグループ各社は、長期経営計画の最終ステージである発展期(2010-2013年)の折り返し点を迎え、いよいよ「事業創造を完成する年」を迎えました。

オートメーションを軸に、国内外でお客さまのご要望にお応えすべく、海外におけるエンジニアリング・サービス機能とともに、現地での製品設計・開発機能を強化し、お客さまの現場でお客さまへの提供価値「安心」「快適」「達成感」「地球環境への貢献」をライフサイクルにわたり提供できる企業を目指して、azbilグループ社員一同、尽力してまいります。

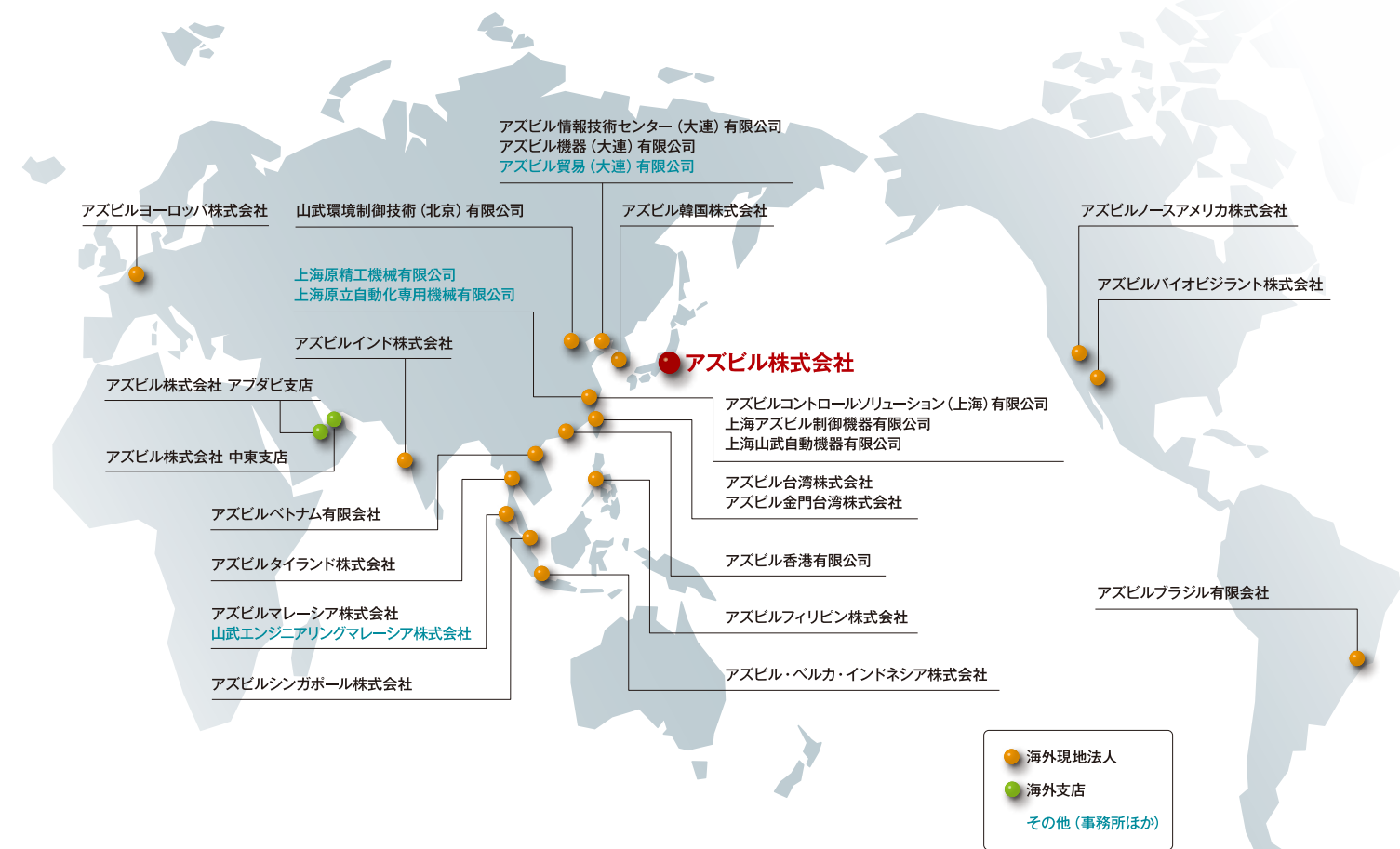
azbilといえば「人を中心としたオートメーション」と想起していただけるようazbilというブランドを育ててまいります。今後ともご愛顧をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ azbilグループ国内グループ会社 【2012年4月1日付で変更】

旧社名	新社名	新社名 (英文)
株式会社 山武	アズビル株式会社	Azbil Corporation
山武コントロールプロダクト株式会社		
株式会社 山武商会	アズビル商事株式会社	Azbil Trading Co., Ltd.
山武フレンドリー株式会社	アズビル山武フレンドリー株式会社	Azbil Yamatake Friendly Co., Ltd.
山武ケアネット株式会社	アズビルあんしんケアサポート株式会社	Azbil Care & Support Co., Ltd.
安全センター株式会社		
セキュリティフライデー株式会社	アズビル セキュリティフライデー株式会社	Azbil SecurityFriday Co., Ltd.
株式会社 金門製作所	アズビル金門株式会社	Azbil kimmon Co., Ltd.
株式会社 青森製作所	アズビル金門青森株式会社	Azbil kimmon Aomori Co., Ltd.
和歌山精器株式会社	アズビル金門和歌山株式会社	Azbil kimmon Wakayama Co., Ltd.
白河精機株式会社	アズビル金門白河株式会社	Azbil kimmon Shirakawa Co., Ltd.
株式会社 金門白沢	アズビル金門白沢株式会社	Azbil kimmon Shirasawa Co., Ltd.
株式会社 金門会津	アズビル金門会津株式会社	Azbil kimmon Aizu Co., Ltd.
株式会社 金門原町	アズビル金門原町株式会社	Azbil kimmon Haramachi Co., Ltd.
株式会社 金門唐津	アズビル金門唐津株式会社	Azbil kimmon Karatsu Co., Ltd.
金門環境設備株式会社	アズビル金門エンジニアリング株式会社	Azbil kimmon Engineering Co., Ltd.
北海道金門工事株式会社		
株式会社 東北金門工事	アズビル京都株式会社	Azbil Kyoto Co., Ltd.
株式会社 山武瑞穂		
ロイヤルコントロールズ株式会社	アズビル ロイヤルコントロールズ株式会社	Azbil RoyalControls Co., Ltd.
株式会社 太信	アズビル太信株式会社	Azbil Taishin Co., Ltd.

■ azbilグループ国際拠点(海外現地法人および支店・事務所)

海外現地法人25カ所、支店2カ所



日本発の技術・ノウハウを核とした施策で台湾国内における省エネ対策の範を示す



台北市に次ぐ台湾第2の都市、高雄市で営業する台湾最大規模のショッピングモールとして知られる夢時代ショッピングモール。同施設では、課題として抱えてきた電力コストの削減を念頭に、省エネ先進国である日本の技術・ノウハウを活用した施策に着手。ESCOサービスの活用によって投資リスクの最小化を図りながら、目標値を大幅に上回る省エネルギーの効果を上げることに成功しました。

台湾最大規模の商業施設で電力コストの削減が重要課題に

日本の九州とほぼ同じ広さの国土に、約2300万人の人々が暮らす台湾。今日では、グローバル規模で見ても、最も急速な経済成長を遂げている国の1つに数えられています。また、歴史を通して、日本とも深い関係性を維持してきており、特に近年ではITや半導体、電子機器産業を中心に、両国のビジネス上のつながりは非常に緊密なものとなっています。

夢時代ショッピングモールは、台湾南部にある工業・港湾都市である高雄市に2007年3月30日にオープン。ショッピングモールとしては、台湾最大規模を誇っています。約1万5000坪という広大な敷地内には、それぞれ地下2階、地上9階、屋上の計12のフロアを有する前棟、後棟の2つの

建物が建てられています。両棟の内部には、800を超えるショップ、レジャーやアート関連、レストランが軒を連ね、1000を超える有名ブランド商品を取りそろえており、平日で約3万5000人、休日ともなると10万人もの買い物客が訪れて大きなにぎわいを見せています。

同施設の運営には、特に小売・サービス事業の分野において台湾屈指の知名度を誇る統一グループ傘下の統正開發股份有限公司が当たっていますが、施設のオープン以来、その運営に伴うエネルギーコストが課題となっていました。

「特に、施設全体で月間2000万台湾ドル（約5150万円）以上を要していた電気代をいかに削減するかが当社にとって重要なテーマとして浮上し

ていました。併せて、統一グループ全体としても、企業の社会的責任（CSR）の一環として省エネルギーの推進を表明しており、それに向けた施策の強化が求められていたのです」（張氏）

日本での豊富な実績に直接触れパートナーに迎えることを決定

統正開發が1つのアプローチとして検討したのが、省エネ先進国である日本の技術・ノウハウを取り入れ、より効果的に施策を展開するというものでした。そこで、統一グループ

中央監視室にBEMSとして導入されているsavic-net FX。



として深いつながりを持っていた三菱商事株式会社に相談。三菱商事と日本国内で日本ファシリティ・ソリューション株式会社の共同事業パートナーとなっているアズビル株式会社が一緒に提案を行うこととなりました。

「検討段階では、アズビル以外にも、それまで施設管理のシステムを担当していた既存ベンダーも含めて3～4社が候補として挙がっていました。アズビルからの提案を受け、実際に日本を訪れてアズビルの省エネ分野での豊富な実績を目の当たりにしたことで、その先進の技術・ノウハウをぜひ活用したいと考えたのがパートナー選定の決め手です」（陳氏）

統正開發がアズビルを選定したのが2009年10月。その後、アズビルが提案していた2つの施策を、3年間のギャランティード・セービングス契約によるESCO事業^{*1}として展開することになりました。その具体的な施策としては、まずBEMS^{*2}としてアズビルの建物管理システムsavic-net™FXを導入し、夢時代ショッピングモールの施設内にある計102台の空調機（一般空調機76台、電気室・機械室空調機26台）の間欠運転を実施するというのが1つ。そして、もう1つが、駐車場と統正開發の執務エリアに設置された2232組の照明器具を、安定器を備えた高効率なものに置き換えるというものです。

「そのほかにもアズビルからは、冷却水ポンプへのインバータ導入による変流量制御の導入などの施策が提案されていましたが、営業しながら工事を行うことで、テナントや施設に影響を与えてしまうという懸念があり、今回はBEMSによる空調機の間欠運転と高効率照明への更新という2つの提案を採用することにしました」（王氏）

導入後1年間の運用において目標値に対し117%の省エネを達成

実施対象となった2つの施策についての工事は2010年6月に完了。稼働後1年を経て、夢時代ショッピングモールには確実

安定器を備えた高効率器具に更新された駐車場の照明。



にその成果がもたらされています。具体的には、ESCOサービスにおける契約上の目標額である年間240万台湾ドルの削減に対し、2010年7月～2011年6月の実績として、空調機の間欠運転、照明、合わせて280万台湾ドルの削減となり、達成率にして117%を実現することができました。「導入した設備も極めて安定的に稼働していることに加え、常に積極的な姿勢でサポートに当たってくれる現地のアズビル台湾の皆さんの対応にも非常に満足しています」（王氏）

統正開發では、今後も今回導入したシステム、設備の運用についてのチューニングを継続的に行いながら、夢時代ショッピングモールの施設においてさらなる省エネ活動を推進していく構えです。さらに、ここで培ったノウハウをほかの施設にも横展開していきたいとしています。

「2011年12月には、台湾の主要都市の1つである台南市においても、新たなショッピングモールの建設が始まっています。この新施設では、高雄市の夢時代ショッピングモールでは採用できなかった、アズビルからのほかの省エネ提案についても積極的に検討していきたいと考えています」（陳氏）

「グローバル規模で省エネルギーに対する要請が高まっていますが、日本などと比べても電気代や水道代などが非常に安価だという事情もあって、台湾ではあまり省エネ活動が進んでいません。企業や国民のさらなる啓蒙が必要で、夢時代ショッピングモールでの施策が1つの模範になればとも考えています。アズビルには、今後も積極的な提案によって、我々の取組みをしっかりと支えていてもらいたいと思います」（張氏）

用語解説

***1:ESCO (Energy Service Company) 事業**
工場やビルの省エネルギーに関する包括的なサービスの提供を通じて、そこで得られる効果をサービス提供者が保証する事業。資金の担保などを顧客が提供し、顧客が一切の償還義務を負う「ギャランティード・セービングス契約」と、ESCO事業者が一切の資金提供を行い、顧客が償還義務を負わない「シェアード・セービングス契約」という2つの契約形態がある。

***2:BEMS (Building and Energy Management System)**
ビル、工場、地域冷暖房といったエネルギー設備全体の省エネルギー監視・制御を自動化し、建物全体のエネルギーを最小化するためのシステム。

統正開發股份有限公司



所在地：80661 高雄市前鎮區中華五路789號
営業開始：2007年3月30日
事業内容：夢時代ショッピングモールの施設管理および運営



社長
張 國光氏



資産管理部
部長
陳 俊璋氏



資産管理部
機電管理チーム
リーダー
王 毓麟氏

高度なノウハウを利用した省エネ施策の展開で 快適性維持と電力などの消費エネルギー低減を 両立してエコ・エアポートの実現に貢献

1978年の開港以来、30年以上にわたり日本の空の表玄関として重要な役割を担ってきた成田国際空港。同空港では、これまでも運用実績を評価し、積極的にムダを省くことで省エネ対策を実施してきました。2008年以降、BEMSに収集・蓄積されている各種データをより一層活用することにより、省エネ対策のさらなる強化に着手。高度なノウハウを利用した各種施策により大きな成果を上げています。



写真提供：成田国際空港株式会社

BEMSに収集・蓄積された情報をさらに有効活用し、施策を強化

成田国際空港は、東京から40分ほどの千葉県成田市に位置し、日本の表玄関として37の国と地域、100都市と結ばれています（2011年10月現在）。1145ヘクタールの空港敷地内には、第1旅客ターミナルビル、第2旅客ターミナルビル、貨物ターミナルビルなどの諸施設があり、年間延べ3000万人を超える人々に利用されています（2010年度）。同空港では「WORLD SKY GATE_NARITA」の名の下、首都圏および東アジアの国際拠点としてのさらなる進化を目指し、国際航空ネットワークの拡大に向けた取り組みに注力しています。2010年には、地元との合意の下、年間発着枠を将来的に30万回にまで拡大していくことが決定。また、ローコストキャリア*1専用ターミナルの建設も予定されており、空港機能の増強が行われています。多様化する航空ニーズに応えるために、さらなる空港施設の利便性向上が目指され

ています。

「空港施設を利用されるお客さまの快適性の追求は重要な視点です。その一方で、近年、省エネルギーに向けた社会的要請もますます高まりつつあり、いかに空港施設内の快適性を維持しながら、電力などのエネルギー消費を低減させていくかが、重要な課題となっています」（田代氏）

この課題に対して第2旅客ターミナルビルでは、2008年に空調設備などの運用・管理を行っていたアズビル株式会社の建物管理システム savic-net™ 50からsavic-net FXへの更新を実施し、それを機にBEMS*2(savic-net FX BMS)を導入。エネルギーに関するデータの計測ポイントを増やし、より細かいエリア単位で、きめ細やかにエネルギー使用量の可視化ができるようになりました。

「BEMSの導入で、これまで把握できなかったエネルギー消費の詳細な実態を知ることができるようになりました。次のステップとして、これらのデータを活用したよ

り効果的な省エネ施策の実践が求められています」（和泉氏）

「BEMSを導入しただけで省エネルギーが達成されるのではなく、あくまでも収集されたエネルギーに関するデータを人が検証し、適切な施策を講じていくことが必要です。それにはデータの評価方法や、それに基づく施策内容を検討していく高度なノウハウが不可欠です」（高橋氏）

広い空港内の快適性を支える 空調機運転の最適化を目指す

そうしたノウハウ獲得のために成田国際空港が行ったのは、建物の運用改善に関して高度なノウハウを持っており、1978年の空港開港から現在に至るまで、旅客ターミナルビルや関連諸施設の空調設備の運用・管理を支えてきたアズビルの省エネルギー支援サービスを活用するというものでした。成田国際空港の運営管理を行う成田国際空港株式会社、および施設の保守・管理を担当する株式会社成田エアポートテクノ



中央監視室に設置された建物管理システムsavic-net FX。

が施設運用の経験から省エネ施策を提案、またアズビルもビル管理のノウハウを活かした省エネ施策を提案し、これを検討、実践していくという協力体制を構築。具体的な施策を進めていくことになりました。「施策展開の第1段階として、旅客ターミナルビルの特徴であり、大きなエネルギーを必要とする大空間向け空調設備に着目し、2010年から空調機ファンのインバータ設定値や外気導入量の見直しなどの省エネ手法を実施しました。BEMSによって収集された温度や湿度、CO₂濃度などのデータを基に室内環境を分析、把握し、ファン動力や外気導入によるエネルギー損失を最小限に抑えることで快適環境を維持しながら空調設備の運転最適化を行いました」（藤代氏）

そのほか、航空機のフライト情報をsavic-net FXに取り込み、航空機発着の前後数十分間だけゲートラウンジやコンコースの空調を行うという制御のチューニングをエリアごとに環境影響を確認しながら実施。空調機の稼働時間を短縮しつつ、空港を利用されるお客さまが快適に過ごせる環境になっています。BEMS導入により詳細なデータを解析できるようになったことで快適さを維持した省エネ運用が実現できました。

省エネ施策のノウハウを 震災に伴う節電対策にも活用

こうして、想定どおりの成果を得ることができた第2旅客ターミナルビルは、翌2011年から次の段階として、ほかのエリアに施策を広げ、さらに省エネ効果を積み上げる構想を描いていましたが、その直後に東日本大震災が発生しました。「震災による電力不足の影響で、快適性の点などでお客さまにご協力を仰ぐなど、か

ターミナルビルのエネルギー消費実態の可視化には、savic-net FXのBEMS機能(savic-net FX BMS)を採用。このデータを活用し、一連の省エネ施策が実施されている。



なり厳しい節電対策を断行せざるを得ませんでした。そうした局面で、取り組んできた省エネ施策の成果が大いに活かされることになりました」（田代氏）
「具体的な節電対策としては、空調設定温度や外気導入量の変更、トレンチ（共同溝）の送排風機運転時間短縮などの施策を行いました」（永瀬氏）

震災に伴う緊急時対応が一段落し、電力需要が切迫する夏季に合わせて第2旅客ターミナルビル全エリアに施策の実施を拡大。それによって、多大な省エネルギーの成果が得られたということです。「一連の施策の展開を通して、アズビルには随時、成果報告をしてもらっていますが、その際に提示される資料はグラフなどを多く取り入れた大変分かりやすいもので、省エネ効果や課題を即座に理解できる点も高く評価しています」（水田氏）
「トラブル発生時にも、連絡をすれば昼夜を問わず迅速に駆けつけて対応に当たってくれるアズビルには大きな安心を感じています」（鈴木氏）

「対策を始めた当初は目に見える効果が表れますが、対策を進めていくにつれて、往々にして効果の高い対策がなくなっていき、成果は必然的に小さくなっていく傾向があります。今後も、アズビルには、その持ち前の高度な運用改善ノウハウで、我々の取り組みを強力に支援してくれることを期待しています」（田代氏）

用語解説

***1:ローコストキャリア (Low-Cost Carrier)**
運航効率の向上やサービスの簡素化などによって運航費用を低く抑制し、低価格で航空輸送サービスを提供する航空会社。

***2:BEMS (Building and Energy Management System)**
ビル、工場、地域冷暖房といったエネルギー設備全体のエネルギー監視・制御を自動化し、建物全体のエネルギー使用量を最小化するためのシステム。

成田国際空港株式会社



写真提供：成田国際空港株式会社

本社所在地：千葉県成田市古込字古込1番地1（成田市成田国際空港内 NAAビル）
設立年月日：1966年7月30日（新東京国際空港公団）
2004年4月1日（成田国際空港株式会社）
事業内容：成田国際空港の運営事業、商業施設の整備などのリテール事業、施設貸付事業、鉄道事業



成田国際空港株式会社
空港運用部門
施設保全部 機械グループ
マネージャー
田代 敏雄氏



成田国際空港株式会社
空港運用部門
施設保全部 機械グループ
副主幹
和泉 達也氏



成田国際空港株式会社
空港運用部門
運用計画部
技術安全計画グループ
マネージャー
水田 拓也氏



成田国際空港株式会社
空港運用部門
運用計画部
技術安全計画グループ
主席
藤代 和宏氏



株式会社 成田エアポートテクノ
技術管理部
技術第1課長
高橋 審氏



株式会社 成田エアポートテクノ
第2保全部 機械課
主任
鈴木 卓也氏



株式会社 成田エアポートテクノ
第2保全部 機械課
主任
永瀬 宏幸氏

ニュース

アズビル株式会社 取締役・執行役員人事
取締役 執行役員常務の曾瀬 寛純が代表取締役社長 執行役員社長に就任
―― 社名変更に合わせ「人を中心としたオートメーション」の事業展開を加速 ――

アズビル株式会社は、4月1日付で代表取締役社長 執行役員社長に曾瀬 寛純（そね ひろずみ）が就任し、代表取締役会長 執行役員会長に小野木 聖二が就任しました。
取締役・執行役員の新体制の下、azbilグループ長期目標で掲げた「世界トップクラスのオートメーション企業」の実現に向け、事業構造ならびに業務構造の改革、およびグループ全体の企業価値向上に努めていきます。
曾瀬社長は、「アズビルの“人を中心としたオートメーション”という理念は、大きく将来を見据えた

考え方として定めたものです。新たなスタートに当たり、引き続きazbilグループの進むべき道しるべとしてその理念を掲げ、事業構造改革と企業価値向上の一層の推進をしていきたいと考えています」と抱負を語っています。
なお、同日付でアズビル株式会社の執行役員体制も改め、ビルシステムカンパニー社長に不破 慶一、アドバンスオートメーションカンパニー社長に岩崎 雅人が就任するとともに、6月下旬に開催予定の第90期定時株主総会にて、取締役体制についても変更いたします。



アズビル株式会社
経営企画部 広報グループ TEL：03-6810-1006

ニュース

サウジアラビアでのJV現地法人設立へ向けた協議開始で合意
―― サウジ資本との合併でバルブ事業の拡大を目指す ――

アズビル株式会社は、海外事業強化の一環として、サウジアラビアでのアドバンスオートメーション事業を拡大するため、サウジアラビアのTharawat Development Co.との間で、合併による調節弁の製造販売ならびにプロセスオートメーション製品、ファクトリーオートメーション製品の販売、エンジニアリング、および関連サービスを提供する現地法人設立に向けた協議を開始することに合意し、「日本・サウジアラビア産業協力フォーラム」において、意向書に調印しました。
新会社は2012年秋までに設立、ライフサイクルサポートを通じ、ソリューションを提供すべく2013年秋から生産を開始する予定です。生産は大口径調節弁の組立てからスタートし、サウジアラビア国内向けの販売だけでなく近隣諸国への輸出も計画しています。
2012年2月にはサウジアラビア商工大臣一行が、モノ作りの現場視察にアズビルの湘南工場を訪問されました。タウフィーク商工大臣からは「アズビルのサウジアラビア早期進出を歓迎する。アズビルに協力していきたい」とのお言葉を頂戴しました。

アズビル株式会社
経営企画部 広報グループ TEL：03-6810-1006



左：Tharawat Development Co. アルハシェム副会長兼社長
右：アズビル 小野木会長



湘南工場で製造している発信器と調節弁の生産ラインをタウフィーク商工大臣が視察

ニュース

アズビル ロイヤルコントロールズ、本社など4カ所でISO 9001を認証取得

アズビル ロイヤルコントロールズ株式会社は、品質保証体制強化のため、本社、東京支店、兵庫支店および東京物流センターの4カ所において、品質マネジメントシステム「ISO 9001」の認証を取得しました。

アズビル ロイヤルコントロールズは、azbilグループの製品を中心に、工業用自動制御機器の販売、計装制御システムのエンジニアリングを行っています。なお、既に環境マネジメントシステムに関する国際規格「ISO 14001」を認証取得しております。

【認証範囲の概要】
認証登録範囲： デジタル計装システムの設計および施工、各種制御および計測機器販売
認証登録番号： 07784
初 回 登 録 日： 2011年12月21日

ニュース

宮城県岩沼市ならびに岩手県大船渡市から
仮設住宅に暮らす高齢者を見守る「ナースホン-あんしんペンダント」を受託

アズビルあんしんケアサポート株式会社は、宮城県岩沼市ならびに岩手県大船渡市からソフトバンクモバイル株式会社の「みまもりケータイ」を使ったモバイル版緊急通報サービス「ナースホン-あんしんペンダント」を受託しました。
本サービスは、利用者が「みまもりケータイ」の発信ボタンを押すと、アズビルあんしんケアサポートのコールセンターにつながり、臨牀経験豊富な看護師が、24時間365日緊急通報や健康相談に対応します。緊急搬送が必要と看護師が判断した場合には、消防署に救急車の出動要請などを行います。また、アズビルあんしんケアサポートから定期的に仮設住宅にお住まいのご利用者さまに電話をかけ、

話を傾聴しながら安否確認と孤独感の解消を行います。
阪神・淡路大震災で課題となった、仮設住宅における高齢者の「ひきこもり」や、誰にもみとられずに死亡する「孤独死」などを防ぐため、困ったときにいつでも相談・連絡できる支援活動の1つとして、アズビルあんしんケアサポートのモバイル版緊急通報サービスが導入開始されました。



アズビルあんしんケアサポート株式会社 TEL：0120-377-317(フリーダイヤル)

展示会情報

第3回 高機能フィルム技術展

会 期：4月11日(水)～4月13日(金)
時 間：10:00～18:00
(最終日は17:00まで)
会 場：東京ビッグサイト
主 催：リード エグジビション ジャパン
入 場 料：5,000円
(事前登録者または招待状持参者は入場無料)
出展内容： ・ 押出し機アプリケーション
・ 品質向上ソリューション
(品質データ管理・解析、フィルム厚み測定、ロール回転数管理 ほか)

アズビル株式会社
アドバンスオートメーションカンパニー
マーケティング部コミュニケーショングループ
TEL：0466-20-2160

展示会情報

SEA JAPAN 2012

会 期：4月18日(水)～4月20日(金)
時 間：10:00～17:00
会 場：東京ビッグサイト
主 催：UBMジャパン
入 場 料：3,000円
(事前登録者または招待状持参者は入場無料)
出展内容： ・ 船舶搭載用燃費計
・ 配船管理システム
・ 安全運航支援
・ バラスト水処理装置向け電磁流量計 ほか

アズビル株式会社
アドバンスオートメーションカンパニー
マーケティング部コミュニケーショングループ
TEL：0466-20-2160

今月の表紙



日本／福島県

MERRY メッセージ 「うさぎ」

●撮影メモ

2011年の大震災後、5月上旬に福島県いわき市で撮影した1枚。「将来何になりたい?」という問いに「うさぎ」と書いた女の子。1カ月後、彼女の笑顔を大きなB1ポスターにしてプレゼントしたところ「私よりもかわいい!」と言ってとても喜んでくれました。彼女の笑顔を見ると、未来への希望と復興への力を感ぜずにはいられません。

水谷事務所代表／MERRY PROJECT 主宰 水谷 孝次さん

Present

azbil 社名変更記念
図書カード(5,000円分)



本品を5名の方にプレゼントいたします。
お名前、貴社名・部署名、ご住所、電話番号、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号をご記入の上、下記宛先に4月末までにご応募ください。厳正な抽選の上、当選者ご本人に直接当選の連絡をいたします。なお、社員ならびに関係者は応募できません。

azbilグループPR誌「azbil」を
ご愛読いただき、ありがとうございます。

本誌に関するお問い合わせやご意見、ご希望、感想、取り上げてほしいテーマなど、皆さまからのお便りをお待ちしております。お名前、貴社名・部署名、ご住所、電話番号、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号などをご記入の上、下記まで郵送、FAX、電子メールなどでお寄せください。
ご住所などの変更に関するご連絡は、宛名ラベルに表示されております8桁の登録番号も併せてお知らせください。

お問い合わせ・プレゼント応募宛先

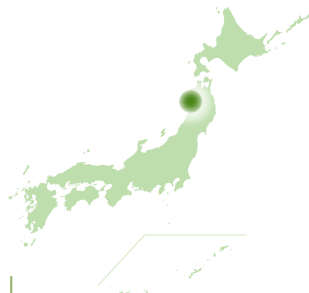
〒100-6419
東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル
アズビル株式会社 azbil 編集事務局
TEL:03-6810-1006
FAX:03-5220-7274
E-mail: azbil-prbook@azbil.com

発 行 日：2012年 4月 1日
発 行：PR誌 azbil 編集事務局
発行責任者：高橋 実加子
制 作：日経BPコンサルティング

編集後記

この4月から社名がアズビル株式会社に変更となりました。私が入社以来、山武ハネウエール→山武ビルシステム→山武→アズビルと4回社名が変わってきました。どの社名にも必ず「山武」の文字が入っていましたが、今度のアズビルは「山武」の文字がはずれ、少し寂しい気持ちがあります。ですが、未来に向けて社員一同一致団結し、生まれ変わった「アズビル」をみんなで育てていきたいと感じました。PR誌「azbil」もますます皆さんに愛されるものになるようにがんばります。(akubi)

大潟村の菜の花ロード (秋田県・大潟村)



菜の花：菜の花は在来種のアブラナのほか、セイヨウアブラナなど食用、観賞用、油採取用などを問わずアブラナ科アブラナ属の総称する言葉となっている。共通するのは鮮やかな黄色い花だ。

菜の花の鮮やかな黄色い絨毯と枝ぶりのいいソメイヨシノの並木が続く人気のドライブコース。

大地のエネルギーを解き放つ菜の花畑と華麗に咲き誇る桜並木の共演

大潟村の真ん中を横断する幹線道路の県道298号線。長い直線が続く爽快なこの道路は、別名「菜の花ロード」と呼ばれている。その名のとおり、4月下旬からは、約11kmにわたって沿道一面に菜の花が咲く。濃い緑色の黒松並木を背景に鮮やかな黄色の菜の花がよく映える。その配色も美しいが、風景が一気に華やかになる見どころがある。黒松に代わって約3000本の桜並木が続くエリアだ。足元には菜の花の黄色い絨毯。その上に覆いかぶさるように、薄桃色の桜が咲き誇る。春を代表する2つの花の共演は、贅沢のひとつだ。総面積6.4haの菜の花畑(道路も含む)は、全国の菜の花の名所の中でも指折りの規模だ。

車を止めて花畑の匂いをかいでみよう。どこか青臭く、お世辞にも洗練された香りとはいえない。しかし、生命の力強さを感じさせる、不思議と元気が出る香りだ。雪の下で長い冬を耐え忍んできた大地の栄養が、匂いからもあふれ出ているような気がする。

桜が満開になるゴールデンウィーク前後には、「菜の花ロード」にほど近い広大な菜の花畑で「桜と菜の花まつり」が開かれる。うらかな春の日を楽しむ絶好の機会だ。

薫りDATA

- 香りの源：菜の花の香り
- 季節：4月下旬～5月下旬
- 所在地：秋田県南秋田郡大潟村・県道298号線沿い
- アクセス：車／秋田自動車道五城目八郎潟ICから約20分
電車／JR奥羽本線八郎潟駅から車で10分

azbil

<http://www.azbil.com/jp/>

2012年4月1日、株式会社 山武 は アズビル株式会社 へ社名を変更いたしました。

国内

- アズビル ● アズビル商事
- アズビル山武フレンドリー
- アズビルあんしんケアサポート
- アズビル セキュリティライダー
- 原エンジニアリング ● アズビル金門
- アズビル京都 ● アズビル ロイヤルコントロールズ
- アズビル太信 ● テムテック研究所

海外

- アズビル韓国 ● アズビル台湾 ● アズビル金門台湾
- アズビルベトナム ● アズビルインド
- アズビルタイランド ● アズビルフィリピン
- アズビルマレーシア ● アズビルシンガポール
- アズビル・ベルカ・インドネシア ● アズビル機器(大連)
- アズビル情報技術センター(大連)
- 山武環境制御技術(北京)
- アズビルコントロールソリューション(上海)
- 上海アズビル制御機器 ● アズビル香港
- 上海山武自動機器 ● アズビルノースアメリカ
- アズビルバイオビザン ● アズビルブラジル
- アズビルヨーロッパ

〈販売店〉

4 April 2012

azbil グループ PR 誌 azbil (アズビル)

azbil 4月号 (通算Vol.43 No.4) 国際標準逐次刊行物番号 ISSN 1881-9680



本誌には、環境にやさしい植物油インキと森林認証紙を使用しています。
本誌からの無断転載・複製はご遠慮ください。